

優秀賞

読み聞かせができるその日まで

倉内 朗子

柳田先生、初めてお手紙を書かせていただきました。私は今、妊娠7ヶ月の妊婦です。これまでは仕事に没頭してきましたが、初めて膨大な空白の時間を与えられ、30年ぶりくらいに足しげく図書館に通うようになりました。

子どもの頃、本を読むことが大好きで、図書館から何冊も何冊も本を借りては寝る前に読書をしていました。本好きになったのは両親の影響が大いにありました。幼稚園から小学校卒業まで、クリスマスプレゼントにはいつも一冊の本が添えられていました。当然その頃はサンタさんからの贈

り物だと信じて疑わなかった私は、クリスマスの朝に飛び起きて、今年はどんな本が贈られたのだろうとワクワクしながら、リボンのついたきれいな包装紙をビリビリと破いていたものです。我が家は四人姉妹なのですが、字を読める子どもはたどたどしく音読をして、まだ字が読めない子どもには母親が読み聞かせをしているビデオが残っていて、数年前に家族で笑いながら見たことを思い出します。

数々の絵本の中でも一番のお気に入りだったのは、加古里子さんの『からすのパンやさん』でした。四人姉妹の自分と同じ四匹の子どもからすたちや、たくさんの種類の魅力的なパンに惹きつけられ、オリジナルパンが並んでいるページを開いては、姉妹たちで一番好きなパンを言い合っ

こしました。のこぎりパンやバイオリンパンなど、普通では想像がつかないような形のパンが並んでいることがおもしろくて、母親に頼んで実際に変てこな形のパンをこねたりもしました。絵本もちろんですが、みんなでパンをこねこねして、誰が一番ユニークなパンを作れるかと遊んでいた記憶の方が強烈かもしれません。

文章だけでは情景をイメージしづらい子どもにとって、絵本は想像を広げるための素晴らしい材料だと思います。先日、久しぶりに絵本コーナーで『からすのパンやさん』を手にとってみたら、「あれ、こんなシーンもあったっけ？」と新たな発見がありました。そしてまた、絵本に描かれている絵の細やかさに感激しました。『からすのパンやさん』に出てくるからすたちは、みんな違った

表情があって、その小さなからすの絵を見ただけで、このからすはどんな性格の持ち主なのだろう、どんな気持ちでパンを買いに来ているのだろうと、いろんなことを勝手に想像してしまいます。今の私の想像と、30年前の私の想像はまったく違っていてもいい、それもまた、おもしろいかなと思います。

『からすのパンやさん』効果なのかはわかりませんが、私は今でもパンが好物です。そんな自分がもうすぐ母親になろうとしているなんて不思議な気持ちです。子どもが生まれたら、最初は何を読んであげるのだろう、私も生まれてくる子どもと一緒に、絵本から広がる世界を語り合ってみたい、そんなことを思っています。そして、自分の子どもにもクリスマスには必ず一冊の本を贈

ろうと心に決めています。

〓柳田邦男先生からのメッセージ〓

倉内さんのおたよりも、大賞の中森さんのおたよりと同じように、自分が幼少期に魅せられた絵本を、親になってあらためて読んで頭のなかを駆けめぐる思いを綴ったものですが、倉内さんの場合は、まだ妊娠七^カ月なんですね。

倉内さんは、幼い頃、両親がクリスマスプレゼントに必ず本を一冊添えてくれるなど、親と子どもたち（姉妹四人）が毎夜本を楽しく読む家庭に育った影響で、寝る前には必ず本を読んでいたという。

そのようななかで特別に楽しかったのは、『からすのパンやさん』だったとのこと。からすのパン

やさんに並んでいるいろいろな面白さのある形のパンのどれが好きか、四人で選びっこしただけでなく、自分の家でパンを焼く時には、四人がそれぞれに変てこな形のパンを作って焼いたというのですから、忘れられない一冊の絵本になったのは当然のことでしょう。

そして三十年経ち、母親になる倉内さんは、久々に足しげく図書館に通うようになり、生まれてくる子に、最初にどんな絵本を読んであげようかと考える日々を過ごしているということです。やはり人は大人になり、子を育てる身になると、自分が幼少期に親にしてもらったことと同じことをするようになるのですね。その家庭文化のよき繰り返し姿を、倉内さんのおたよりは、とても実感豊かに書いてくださいました。

私は、最近、マタニティブックスタートというもの
ものを広く呼びかけています。胎児は生まれる一
〜二カ月前には、お母さんのこのころの状態を敏感
に感じていることが、科学的に証明されています。
例えば、お母さんが夫の暴力で全身を震わすよう
に泣くとか、うつ状態に陥って何もしないでいる
といった状態になっていると、胎児の脳は感知し
て、ちぢこまった状態になるということです。脳の
発達が止まってしまうのです。

これに対し、お母さんの感情が安定し、楽しく
笑ったりしていると、胎児の脳は健全に発達する
のです。そこで、お母さんが胎児にゆっくりと絵
本の読み聞かせをしてあげると、そのやわらかい
声の響きとこのころの落ち着きとから、胎児の脳は
安心して成長するということです。それが、マタ

ニティブックスタートの意義です。胎児に対して、
そういうあたたかい読み聞かせをしていると、生
まれてから一〜二カ月経った時点でブックスター
トを実践すると、赤ちゃん早期に絵本になじみ、
絵本大好きになるに違いないと、私は考えていま
す。

倉内さんも、マタニティブックスタートに挑戦
してみませんか。